

みんなで暮らす

1月は 多文化共生を推進する
「ライフ・イン・ハーモニー」推進月間です

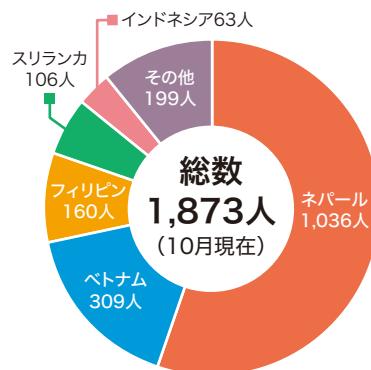
多文化共生って？

多文化共生とは、国籍や民族などが異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていくことです。

人手不足を解消するため、外国人材を受け入れる動きが全国で進んでいます。今後もこの数は増えると予想され、地域社会の担い手である外国人住民との共生は必要不可欠です。

多文化共生を実現するためには、まずは身近な住民同士の国籍を超えたコミュニケーションが大切です。市は、どの言葉を使う人ともコミュニケーションをとれる「やさしい日本語」の普及に取り組んでいます。

小都市で暮らす外国人住民の数



やさしい日本語を知っていますか

やさしい日本語は、文法・言葉の難しさや文章の長さに配慮してわかりやすくした日本語です。

「外国人=英語」というイメージがあるかもしれません。日本に住む外国人の約8割は日常生活に困らない程度の会話力があります。以下のポイントを参考に、やさしい日本語を意識したコミュニケーションを実践してみましょう。

やさしい日本語のPOINT

- ゆっくり、はっきり話す
- 短く話す
- 簡単な言葉を選ぶ
- 「～です」「～ます」を使う
- カタカナを使わない
- 擬音語や擬態語を使わない
- あいまいな表現を避ける
- 方言を使わない

やさしい日本語に言い換えてみよう

例 今度あそこで祭りがある予定やけど、雨がザーザー降りやったらできんね。市役所ば聞いてみらんね。

▶ 10月1日に東町公園で祭りがあります。
→ 具体的に伝える

▶ 雨がたくさん降ったらできません。
→ 擬音語を使わない

▶ 市役所に祭りができるか聞いてください。
→ 方言を使わない

文を短く
区切る



学校や日本語教室で外国籍の子どもを支援する後藤さん



どうやって外国籍の子どもたちと コミュニケーションをとっているの？

初めは日本語が全く話せない子がほとんどで、翻訳アプリを使いつつ、日本語の短い単語にジェスチャーを添えてコミュニケーションをとっています。

子どもたちは日本で生活する中で「日本語のシャワー」をたくさん浴び、徐々に日本語で会話できるようになっていきます。英語で話そうと考えすぎず、単語など簡単な日本語を使い、身振り手振りを交えて話してみると伝わることがたくさんあります。

日本人も 外国人も みんなつながる

多文化共生のための取り組み

市内に住む外国人住民に向けた、生活のルールや情報をわかりやすく伝えるための取り組みを紹介します。

ごみ出し講習、ごみの出し方表

生活環境課は、日本語学校の留学生にごみの分別方法を教えています。ごみ出しガイドやゲームを取り入れて楽しく学び、実生活に役立てられるよう工夫しています。

また、やさしい日本語や外国語に対応したごみの出し方表を作成し、転入手続きのときに配布しています。

市ホームページ
でダウンロード



外国人住民向けのホームページ

市ホームページでは外国人住民向けに、税金や公共料金、医療機関、日本語の学習など生活に必要な情報をやさしい日本語でまとめたページを公開しています。

やさしいにほんご
のページ

自転車の乗り方講習

小郡警察署は、日本語学校の留学生を対象に自転車の乗り方講習会を開いています。11月に小郡自動車学校で開かれた講習会では、専門の訓練を積んだ役者による事故の再現などが行われ、参加した日本語学校の留学生が車道の横断や並列運転の危険性を学びました。

留学生の感想

自分のためにも
相手のためにも
ルールを守ろうと
思いました



地域でもさまざまな多文化共生の取り組みが行われています



インターナショナルパーティ

インターナショナルパーティでは、軽食を囲んでコミュニケーションを楽しみました。

外国人住民によるバンド演奏なども披露され、参加者はやさしい日本語を使って交流しました。主催：おごおり国際交流協会



下町区の夏祭り

地域の夏祭りに市内の日本語学校の留学生が参加し、母国ネパールのダンスを披露してくれました。

総踊りや和太鼓の演奏体験など、お互いの文化に触れて交流する有意義な場となりました。主催：下町区スポーツ振興委員会



多文化交流バーベキュー

家族連れもたくさん参加し、バーベキューやスポーツを通じて国籍や年齢を超えた交流を楽しみました。

参加者は「普段はできない交流ができた」「また参加したい」と話していました。主催：おごおり国際交流協会